

**Citation:** Chou D, Abalos E, Gyte GML, Gülmezoglu AM. Paracetamol/acetaminophen (single administration) for perineal pain in the early postpartum period. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2010, Issue 3. Art. No.: CD008407. DOI: 10.1002/14651858.CD008407.

**CRG名:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group

### [最新版\(英語版\)はこちら](#)

**英語版最終改訂年月:** 15 February 2010

**Clib issue No.;** N/U: 2010 issue 3; New

**背景:** 会陰痛はよくみられるが、ほとんど研究されていない出産後の有害アウトカムである。疼痛は、挫傷、自然裂傷、外科的切開(会陰切開)に起因するか、操作的出産(吸引分娩や鉗子分娩)に関連する会陰外傷から生じることがある。

**目的:** 分娩後早期の会陰痛緩和に用いられる全身薬パラセタモール(アセトアミノフェン)の単回投与の有効性を明らかにする。

**検索戦略:** Cochrane Pregnancy and Childbirth Group's Trials Register(2009年12月)を検索した。

**選択基準:** 産褥早期会陰痛を有する女性に対するパラセタモール(アセトアミノフェン)単回投与をプラセボと比較評価しているランダム化比較試験(RCT)。準RCTやクロスオーバー研究は除外した。

**データ収集と分析:** 2人のレビューアが各々の論文を選択するかどうか評価し、データを抽出した。1人のレビューアがその決定を精査し、疼痛緩和スコアの計算を確認した。

**主な結果:** 2用量のパラセタモールを記述している10件の研究を選択した。これらのうち5件の研究(女性526例)が500mg~650mgのパラセタモールを評価し、6件の研究(女性841例)が1,000mgのパラセタモールを評価した。用いられた用量が不均一であったので、ランダム効果メタアナリシスを用いることを選択した。研究は1970年代から1990年代初期までのものであり、バイアスのリスクを正確に評価するには情報は不十分であった。それゆえ、知見をこの文脈の中で解釈する必要がある。

プラセボと比較して、パラセタモールによって疼痛緩和を経験した女性が多かった(平均リスク比(RR)2.14、95%信頼区間(CI)1.59~2.89、10件の研究、1,279例の女性)。さらに、疼痛緩和を追加した女性の数は、プラセボと比較して、パラセタモールにおいて有意に少なかった(RR 0.34、95%CI 0.21~0.55、8件の研究、女性1,132例)。500mg~650mgおよび1,000mgのいずれの用量のパラセタモールはより多く疼痛を緩和するのにプラセボよりも有効であった。

選択された研究のいずれにおいても母親と新生児に起こり得る薬物有害作用は評価されなかった。実際に、評価された副次的アウトカムはわずかであった。

**レビューアの結論:** パラセタモールによりプラセボと比較して、多くの女性が疼痛緩和を経験し、疼痛緩和を追加した女性は少なかった。しかし、起こり得る有害作用は評価されず、概して研究の質は不明であった。

(監訳 江藤 宏美)

翻訳公開日: 2010年11月18日

ご注意: この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年4回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。